

手だて②	予想する生徒の姿
<p>「どんな判決が妥当だろう」という追究への意欲を引き出すために、年齢や家庭環境など条件を変えた事件を取り扱う。</p> <p>T:「19歳の被告人を大人と同じ判決にしますか」</p>	<p>・18歳は成人だから大人と同じように刑罰が必要だよ。</p> <p>・まだ10代だから、少年院に送るのがいいと思うよ。</p> <p>・家庭環境を考えると保護観察処分でも更生できると思うよ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・立場がはっきりしていなかったで、「裁判員として」などの立場を明確にした方が思考することができたと思う。 ・条件の文量が多かったで、箇条書きなどで簡単に条件付けしたものを提示したほうが子どもが考えやすかったと思う。 	
<p>生徒が自分の判決を多面的・多角的に考えられるように、生徒を揺さぶる資料を提示する。</p>	<p>・子どもの権利条約によると、子どもは守られる存在であると考えられているよ。</p> <p>・成人年齢の引き下げにより、自分で責任を取ることが求められるようになったよ。</p> <p>・被害者の思いを考えると、罪を償うことが求められるよ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・資料が多く、生徒が読み込むことができていなかった。1つの資料にするか、情報量を減らすことで揺さぶりの資料として生かすことできたと思う。 ・座標軸を活用して生徒同士の関わりを広げることで、多面的・多角的に考えることができたと思う。 	
<p>裁判所の役割に気付かせるために、個人の判決を話し合わせ、判決を出す上で大切にしていたことを共有できるようにする。</p>	<p>・刑罰が必要だと思ったよ。被害者の人権を守ることを意識したよ。</p> <p>・少年院送致にしたよ。被告人が1番更生できる判決にしたよ。</p> <p>・保護観察処分にしたよ。被告人の人権を守ることを大切にしたよ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体でどちらを選んだかを数値で表したり、黒板で書いたりすることで、話し合いがより活発になったと思う。 ・論点が「かわいそう」というような感情論になってしまったので、法にもとづくという裁判官の立場を考えた上で、話し合いを進めるべきであった。 	
手だて③	
<p>級友と自分の意見を比較し、客観視したうえで、新たな考えに気付けるように、振り返りの視点を【③友達と話し合っ感じたこと】と【④次に生かしたいこと】に設定する。</p>	<p>③友達と話し合っ感じたこと</p> <p>・裁判はいろいろな人の立場を考えて判決を出す必要があることが分かった。</p> <p>④次に生かしたいこと</p> <p>・裁判の役割が分かったよ。大人になって、今日の学びを生かしていきたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・共有ノートで意見を書いているので、全体へと意見を共有し、振り返りから学習のまとめができるとよかった。 ・全体での振り返りを行わなかったで、裁判の役割という学びが達成されていないように感じた。 	

授業者の振り返り

今回の授業、協議会を行って1番学びとなったことは生徒の思考を深めることについてです。生徒がさまざまなことを考えられるようにたくさんの資料を用意しました。しかし、実際は生徒が情報過多となり、十分に思考ができていないことに気付きました。協議会では、生徒の思考を深めるための手立てとして、資料の厳選や立場の明確化を提案していただきました。また、グループ活動だけではなく、全体での話し合いやICTでの共有ツールを使うことで、多面的な意見にたくさん触れ、思考を深めることもできたことも学びました。生徒たちがとても興味をもって話し合いができる題材だったからこそ、さらに授業の中でより思考を深める活動ができたならよかったと思います。これからの授業に生かしていきたいです。